

第1回行財政改革懇談会 会議概要

- 日 時 令和元年12月11日（水）午後3時00分～午後4時30分
- 会 場 鶴岡市役所 別棟2号館 21号会議室
- 出席委員 上野隆一委員 佐藤敏委員 佐藤静夫委員 渋谷広之委員
菅原けい子委員 中村哲也委員
- 欠席委員 佐藤正一委員
- 市側出席者 市長 総務部長 朝日支所長 総務部参事 財政課長
職員課主幹 事務局 3名
- 傍聴者人数 5名

（午後3：00 開会）

1. 開 会

五十嵐職員課主幹

これより第1回鶴岡市行財政改革懇談会を開会いたします。委員の皆様には年末のご多用の中ご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。本日の進行を務めさせていただきます、事務局職員課の五十嵐です。どうぞよろしくお願い致します。

2. 委嘱状交付

五十嵐職員課主幹

それでは、会議に先立ちまして、委嘱状の交付をさせていただきます。皆川市長より皆様に委嘱状をお渡しいたしますので、ご自分の席にて、お受け取り願います。

——— 市長より委員へ委嘱状交付 ———

3. 挨拶

五十嵐職員課主幹

続きまして、市長よりご挨拶申し上げます。

皆川市長

皆様、年末の大変ご多用のところ、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。本日、1回目の鶴岡市行財政改革懇談会の開催ということで、先ほど委員の皆様にご挨拶をさせていただきました。皆様方からは、日頃よりそれぞれのお立場で、本市行政の推進にお力を賜っておりますこと、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。この懇談会でございますが、今後、更なる進行が想定されております人口減少・少子高齢化社会にありまして、今年度より新しい総合計画を実施に移しているところでございますが、この施策を着実に実行できる行財政基盤の維持・強化が喫緊の課題であります。効率的な組織機構への転換、持続的な財政構造に関する事など、有識者の皆様の視点から、様々なご意見をいただきたく、この度、懇談会を設置したものです。私共が考えております現状と課題の認識、また、その対応策の方向性につきまして、忌憚のないご意見、ご指摘をいただければ大変ありがたく思います。この議論の内容につきましては、本市行財政改革の指針づくりの基礎といたしまして、来年度に具体化をする新たな行財政改革計画の内容に活かしてまいりたい所存であります。限られた時間ではございますが、是非率直なご意見を頂戴いただきたく、お願いいたします。活発な協議をお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくをお願いいたします。

五十嵐職員課主幹

それでは、本日の配布資料の確認をさせていただきます。

- ・ 次第
- ・ 鶴岡市行財政改革委員名簿
- ・ 鶴岡市普通会計決算額の推移
- ・ 新たな行財政改革の推進の方向性（初稿）
- ・ 組織機構の見直しの基本方針について
- ・ 庁舎改築等を踏まえた組織機構のあり方検討
- ・ 朝日庁舎の改築について
- ・ 朝日庁舎の地域振興施策
- ・ 本庁－庁舎間web会議システムについて
- ・ RPA導入実証事業について

皆様、お手元の資料に不足はございませんでしょうか。

4. 協議

五十嵐職員課主幹

それでは、次第に従いまして、4. 協議に入ります。ここからは、懇談会設置要綱によりまして、懇談会を主宰いたします、高橋総務部長に進行をお願いいたします。

高橋総務部長

総務部長の高橋です。暫時の間会議の進行を務めますので、ご協力よろしくお願ひいたします。それでは4. 協議に入ります。本日の会議の予定について、説明、質疑、意見交換を含め、概ね16時30分くらいを終了の目途にさせていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、まず前回の事前説明会で委員からご意見、ご質問がありましたなかで、特に市の財政状況の推移についてご質問がありましたので、そのことにつきまして、事務局から説明させていただきます。

森屋財政課長

財政課長の森屋と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

前回の会議の際に、合併特例債の状況や各種基金の状況、決算収支の推移の資料を説明させていただきましたが、委員から、収入の全体的な状況、主な項目の推移を教えて欲しいとお話しがありましたので、本日準備させていただきましたところ。

(説明)

高橋総務部長

簡単にご説明させていただきましたが、いかがでしょうか。

委員

前回、合併特例債の件が話題になりましたが、合併特例債はこの表の中のどこに含まれるのですか。

森屋財政課長

合併特例債を借入し、収入にする、という点では、歳入の「市債」の内数となります。借り入れたお金の返済金については、歳出の「公債費」にあたります。

委員

前回、合併特例債の残りが無くなる、という話を聞いたが、この資料を見る限りにおいては、今の段階ではそれほど大きな変化は無いように見えます。

森屋財政課長

これまでについては、決められた配分枠の中で有効に活用してきました。発行可能額が残り数十億しかない状況ですので、今後は合併特例債だけに頼らないで、過疎債など他の起債を活用していく必要がでてきます。

委員

この件については分かりました。歳出の人件費についてですが、平成22年の行財政改革推進委員会においては、一番節減できるものは人件費だろう、ということで、人件費に焦点を当てた論議をしたと記憶しています。その際は、もっと削減できるはずだったが、何はともあれ漸減しているようです。ただ、少し腑に落ちないのは、正規の職員から第三セクター（指定管理者）に移行して、人件費をそちらに持って行った例があります。例えば保育園などですが、恐らくこの表の人件費からは外れたと思いますが、その割には人件費が減っていないと思います。第三セクター（指定管理者）に移行した分を加えると、果たして本当に減っているのか疑問があります。直ぐに資料を出すのは難しいと思いますが、一つの問題提起として受け止めていただきたいと思います。

渡部総務部参事

人件費の削減と、それに伴う委託による歳出の増減についてですが、個別の保育園を委託することによる人数の減と、委託料の増をまとめた資料を今は持ち合わせておりませんので、後日まとめたものをお示しさせていただきます。

委員

これは大事なところだと思いますので、資料の提出をお願いいたします。

高橋総務部長

次回までの整理とさせていただきますが、場合によっては事前にお送りさせていただきます。

皆川市長

委員のご意見は非常に重要だと思います。定員適正化を推進する必要がありますが、これから会計年度任用職員制度が始まります。これによって、期末手

当を新たに支出する必要がでてまいりまして、来年度には1.45か月分、約2.2億円の歳出増要因があります。また、かつては市職員が担っていた部分を指定管理者に委ねて、そちらの費用として、従来は人件費のものを物件費として支出している部分があります。ただ職員が減ればいいというだけでなく、トータルとしてコストダウンが図られながらいいサービスが提供できているか、という視点は大事だと思います。

委員

前回総務部長からは歳入歳出で10億円の赤字であるという話がありましたが、この席で10億円の節約を図るのかと、ふと思いました。しかし、たかが10億円を削減するだけではあまり意味が無いような気がします。この点についてまずは市長の目的をお聞きしたいと思います。先ほどの市長の話では、これから推進していく第2次総合計画ですが、立派な冊子で、これから鶴岡市が希望あふれるようなまちになっていくような文言がずっと並んでおりまして、果たして本当にこれが実現できればいいと思いますが、財政的裏付けとして、良い政策を行うためには先立つものが必要となります。それを捻出するのがこの会議ではないかと思っております。

隣の三川町の様子も少し調べたところ、三川町は住民から割合人気が高いようです。なぜかという、若い人が移住した場合、何十万円が貰える。また、子供が生まれると、第1子目が10万円、第2子目が20万円でしたか、とにかく子供が生まれるとお金が貰えるというような制度があります。鶴岡市では合併特例債などで優遇されてきたが、そういった制度を生み出せていない。他の町より良い施策ができていかないと、鶴岡市に住んで良かったということにはならないと思います。こうした施策をどう作っていくかについてもこの会議で話し合えれば良いと思っております。そういった点で、今回この懇談会を設置した目的をもう少し具体的に市長からお話しいただきたいのですが。

皆川市長

委員からは、事前の説明の際にも、節約したお金がどう使われるのか、といったご指摘もあったと伺っております。緊縮財政という言葉がありますが、これは財政を縮小することが目的ではありません。市民サービスを一番効率よく、できれば市民サービスが向上するように提供していく体制を整え、市民に満足していただけるようなサービスを提供していくことが必要です。ややもすると、行財政改革の担当部署は、ただカットする視点だけで仕事を進めてしまう懸念もありますので、そういったことに陥らないように、仕事を見直す際には、別の手法で同じようなサービスを提供できないか。新しい技術などを活用しながら、今行政が抱えている無駄を見直すことで、住民サービスの向上に繋がられ

るものがないか模索しながら、この行財政改革懇談会の目的を達していきたいと考えています。今までは合併特例期間という、いわば非常に特殊な期間でありました。合併特例債という、約500億円の有利な起債があつて、その間施設整備などに余裕を持って取り組むことができました。また、地方交付税につきましても、合併に配慮した形で交付を受けていましたが、いよいよ配慮されていた部分の終わりが見えてきましたので、歳入に見合った歳出構造へ転換していくということが重要です。また、職員の体制につきましても、今日この後で朝日支所長からも説明がありますが、合併から14年が経過し、朝日庁舎は建て替えを予定しております。公費を投入して庁舎を建設するときに、今までと同じ体制で十分なのか、この機会に必要な見直しを図って、より良い住民サービスが提供できる体制はどういうものなのか、という観点で、この場で議論をしていきたいと考えております。行政の議論に慣れていないと発言を迷うかもしれませんが、色んな手法があると思いますので、自由に色々発言していただきたいと思います。これから具体的に私どもが考えていることをお示しながら、皆様方からもご意見をいただいて、取りまとめに向かっていきたいと考えております。

委員

定員適正化ということで人件費を減らすお話しがありましたが、指定管理団体に委託したり、ボランティアに頼むことになったり、そういう形になるのは上手くないと思います。やはり、簡単に人件費を削減する方向で考えずに、いろんな手法を考えて人件費削減に繋げていただきたいと思います。例えば、パソコンの入力にしても、音声入力などもありますし、そういった技術も導入して、ブラインドタッチができる人もできない人も、皆さんが同じ量の仕事になるようにするなど、色々考えられると思います。

第2次総合計画を読みましたが、語尾に「支援します」という言葉がたくさんでてきました。これは人的支援と金銭的支援と考えていいと思います。自治会等で介護予防の補助金やステップアップ補助金などの支援を受けていますし、間接的に言えば観光協会、体育協会、出羽商工会からも支援を受けています。それらを受けて地域振興として様々な事業をしておりますが、例えば、ステップアップ補助金を3年受けて事業を行いました、失敗しました。住民の理解が得られないということで、12万円を使いましたが失敗に終わりました。介護予防なども今行っていますが、恐らく失敗すると思います。福祉の会合等でも話していますが、100歳体操を1～2週間に1回やっていますが、これでは効果がなくて、毎日やらないと効果がないそうです。地域コミュニティは一生懸命集まって酒でも飲んで話していればいい、と皆さん言っておりますが、また一つのコミュニティができてしまって、新しい人が入ってこなくなります。

そうするとどんどん尻すぼみになっていって、最終的には無くなってしまい、市のお金を何十万と使って、最終的には何の結果も出せなかった、ということになりえると思います。私も色んなところで庁舎の人と相談しますが、なかなか解決策が得られない。皆さん心配はしてくれますが、最終的にリーダーもいないし、住民の理解も得られなくなったらお金を使っても地域の振興に繋がらなかったということになります。市の職員からの助言等は今でも受けてはいますが、なかなか我々のところまで届いていません。

補助金の見直しについて、皆さんに考えていただきたいのは、例えば観光協会、体育協会など、先ほど言いましたが、実は私どもは末端でお金をもらっているだけです。それに対して活動計画や収支計画を一切出しておりません。それらが全て市の補助金ではありませんが、そういったところまで管理したほうが良いと思います。また、実効のあがらない協会、組織については、補助金を減らしていく方針で進めるのも一つの考えだと思います。

高橋総務部長

ありがとうございます。ご議論を広くご展開いただいておりますので、次のテーマと併せてご協議いただくと、また深めていただけるとと思いますので、まず次の説明をさせていただきます。

本懇談会のご意見を踏まえ、今後新しい行革の指針を作っていくことがねらいであります。そのベースとなる枠組み、全体像のイメージを現段階の叩き台としてご確認いただきますと、議論も進めていきやすいかと思っておりますので、そのことについて、ここで説明させていただきます。

渡部総務部参事

それでは私から、行財政改革の推進の方向性を説明させていただきます。

(説明)

高橋総務部長

引き続き、組織機構についての説明もお願いします。

渡部総務部参事

組織機構の見直しの基本方針について説明させていただきます。

(説明)

伊藤朝日支所長

私からは、朝日庁舎の改築計画を踏まえた組織機構のあり方の検討経過について説明をさせていただきます。

(説明)

渡部総務部参事

参考資料として添付しております、Web会議システム、RPA導入実証事業についてご説明いたします。

(説明)

高橋総務部長

お時間をいただき、説明をさせていただきました。まず、本日のテーマとして、地域庁舎のあり方について率直なご意見をお伺いしたいと考えています。一つ具体的にイメージしていただきたいのは、本所機能の移転です。本所で中枢機能をもっている機能、例えば過疎対策ですが、現在は本所の地域振興課で市全体の過疎対策をマネジメントしています。その機能を過疎問題がより大きく顕在化している朝日地域に移転し、中枢機能として朝日でマネジメントし、朝日地域の人材と一緒に進めることで活性化できるのではないか、というイメージがあります。このような点について、朝日地庁舎の建て替えにあたって、具体的に基本構想にも盛り込んでいく必要があることも踏まえながら、是非委員の皆様からご意見をお伺いしたいと考えております。

委員

朝日地区の過疎の状況も、合併時から見ればかなり大変な状況になっています。合併して1年目か2年目の頃に、各庁舎に総務企画部門からは独立した形で政策企画室という組織が設置され、朝日庁舎、櫛引庁舎、温海庁舎はそこで過疎対策に取り組んでいた時期がありました。人数は確か2～3人だったと思いますが、集落に出かけ、実態調査を実施し、その結果から問題点を把握し、課題を抽出しながら政策の方針を示す役割を担っていました。年に数回、櫛引庁舎で3庁舎合同の情報交換を行いながら、3年間ほど、施策の大綱、方針を作成していました。本所機能の再配分になるかどうかは分かりませんが、形を変えて再度、施策の実施主体まで格上げして、各庁舎に政策企画室的な機関を設置してはどうかと考えています。地域住民に密着した様々な課題がありますので、そうしたものを検討し、さらにはまちづくり未来事業の企画立案まで行うことができればよいと思います。

委員

行革は単なる削減ではなく、新たな付加価値の提供、と謳っておりますが、全くその通りで、行革を進めていくうえでの根本的な考えだと思います。我々としては市役所、庁舎の職員が働きやすい職場にしてもらいたいと考えています。今、元気のある庁舎はありません。どこの庁舎に入っても、誰一人あいさつをする人がいません。お金のかからない一つの行革としては、あいさつから入っていくことも方法であると思います。荘内病院は、2、3年前と比べるとあいさつがすごく良くなっています。本所、各庁舎もそうですが、「何しに来たのか」というように見ている人はいないと思いますが、仕事が忙しくて目が届かないというのであれば仕方ありませんが、やはり、住民票をとりに来たおじいちゃん、おばあちゃんに優しく声をかけることが足りないのではないのでしょうか。まずはお金のかからないあいさつ運動を提案したいと思います。

朝日庁舎を今後市としてどうしていくか、という議論がまだまだ足りないと思います。羽黒庁舎は新しいですが、詰め込んであつてすごく狭く見え、あの状態で庁舎の職員が働きやすいのかと心配になります。櫛引庁舎は比較的ゆっくりしていますが、羽黒庁舎は新しいのに、設計段階で分かっていたのか、分からなかったのか、非常に狭いと感じています。

朝日庁舎もただ人数を減らすということだけでなく、様々なやり方があると思います。今後、朝日地域は林業が重要であり、林業をどのようにして伸ばしていくのか。林業機能を全て朝日庁舎に持っていくとか、一時期土木課を一本にまとめようとしたことがありましたが、結局それもどうなったか分かりませんが、そういったことにならないように、林業にもう少し力を入れた朝日庁舎にしてもらいたいと思います。

委員

組織体制の話ですが、朝日庁舎はこれから4 1人体制とするのか、現状4 1人体制なのか、どちらですか。

高橋総務部長

現状の報告となります。

委員

今後改革を進めて、どういうふうにしていこうか議論する、ということですね。私自身朝日のことはそれほど詳しくありませんが、出羽商工会の中でも、朝日と温海の人員が減っている状況で、ある意味過疎の先進地域であり、いずれ藤島、羽黒、櫛引にも波及していく事象であると思っています。そういった意味で、現状の朝日、温海の問題は大切で、課題に対してどう対策していくか

が重要になっています。地域振興施策の説明を受けましたが、これは今始まった話でなく、前々からこうした状況にあったのではないのでしょうか。これからの改革に向けてこの施策をやるというのは、かなりわざとらしい。これから整備される話だろうと思いますが、施策に対しての目標、数値目標などがまったくないというのは単なる役所の作文に過ぎないと思います。内容として悪いことではないので、もう少し深掘りしていかないと難しいと思います。より計画を緻密に積み上げて、責任分担をしっかりと実施していく。要はP D C Aになるとと思いますが、現段階ではP D C Aのサイクルには乗っていないように感じます。朝日庁舎は外観しか見たことがないのですが、建設するとなるとまたお金がかかります。お金をかけて、また文化会館みたいになってしまうとこれもまた始末に負えないと思っていまして、建設をするならするで、しっかりと経過を把握するように、気を付けていただきたいと思います。とにかく、過疎先進地であるという認識と、具体化が必要で、事務局提案の一つ一つは悪いことは何もないと思いますので、深掘りをどうしていくか、これをこの場で議論できれば良いと思います。

委員

前回、各庁舎のこれからのイメージ、といったお願いをして、今回朝日庁舎の資料を拝見しましたが、今41名の職員がいて、窓口業務など、庁舎に必要なものは必ずあると思いますが、それは絶対に守りながら、前回も申し上げましたが、各庁舎で拠点機能というか、そういった考えも持ってみたらどうかと私は思います。私なりに考えてみましたが、羽黒はやはり羽黒山、松ヶ岡などがありますので、観光、商工の分野を羽黒庁舎で集約、一本化を考えてはどうでしょうか。藤島は、サンサン・畑の会という素晴らしい組織があって、食、農については藤島が先端を行っていると思いますので、そういったところは藤島へ集約する。櫛引は素晴らしい教育が根付いているところだと思いますし、朝日、温海は圧倒的に素晴らしい自然があります。まちづくり塾でも何度も行きましたし、同世代の方々とも、どうすれば地域を活性化できるか議論を重ねてきましたが、やはり自然に敵うものはないと思います。ですので、朝日は自然、山、湯殿山スキー場などがあるので、自然が好きな方の拠点する考えもあります。子どもたちもスキー教室が再開されますので、その拠点として、朝日庁舎からバスが出るなど、こういったことも面白いかと思います。温海であれば海、鼠ヶ関で頑張っている方もいらっしゃいますので、そういう人を支援するなど、漠然としていて申し訳ないのですが、そんな拠点施設を付加価値として付けてはどうでしょうか。名前も〇〇庁舎では固いので、自然・朝日庁舎、まなび・櫛引庁舎、例えばそんな愛称にしたりすれば面白いし、市民の皆さんも分かりやすいと思います。山歩き、トレッキングなどが流行っているので、

人は集まると思いますし、地域に根付いたものができれば良いと思います。

委員

自分の中で良く咀嚼できないでいますので、発言に語弊があったら申し訳ありません。鶴岡は全国的に元気なまちであると言われて、それは市民として嬉しく思います。家の近くにスイデンテラスがあって、市民の方はあまり利用されません。息子2人が東京にいますが、鶴岡に帰ってくると、素晴らしい所だ、とよく言います。都会の喧騒のなかで暮らしている人がこちらに来ると、良い所だと思うようです。市側では一生懸命構想を練っていただいています、なかなか市民の方が、私と同じで咀嚼されていない状況があると思います。小さいことですが、民生児童委員をさせていただいております、安否確認に行きますが、お年寄りは大切です。よく子どもには「子供叱るな来た道だ、年寄笑うな行く道だ」と育ててきましたが、お年寄りの方は市政がよく分かっていません。広報を見ても分からないので、私が説明をして歩いています、行政と市民とが一緒に前を向いて歩いていないような、大変失礼ながら、そんな感じが見受けられます。行財政について私は分かりませんが、今、庁舎の話をされています、特色などをもっと強固に推して、市民の方が分かりやすいようにしていただきたいと思います。先ほどもお話しありましたが、元気な市は挨拶から始まると思います。「言葉は心の使い」ですので、市職員の皆様からもそういった面で気を付けていただくと、もっと行政と市民が一緒に前を向いて歩けるようになると思います。

委員

先ほど地域振興ということで申し上げましたが、昔、観光地のキャンペーンなどで色々な所にいってきましたが、今温海温泉、湯野浜温泉、湯田川温泉の3温泉がありますが、非常に空き旅館が目立ちます。10年後、20年後を目指してキャンペーンをやってきたと思いますが、結果がこのとおりです。ずっと補助金を続けてきた市の責任とは言いませんが、ダメなものはダメとして引くことも必要だと思います。ただ垂れ流し的に出せばいい、ということではなく、目先を変えた形で補助金を出していくことが重要だと思います。

委員

朝日庁舎に関しては普通の庁舎で良いと思います。普通が一番難しいのかもしれないかもしれませんが、特段変わった庁舎にする必要はなく、41名が働きやすい職場にしてもらえれば、良いのではないのでしょうか。余り新しいことをすると、最初は良いけどもジリ貧になっていくような心配もあります。普通の庁舎を基本に考えて、本庁舎で残業が多いような部署に課ごと移動してやっていければ良

いですが、決して41名が人員の削減にならないようお願いしたいと思います。

委員

まちづくり未来事業に関する予算がついていますが、朝日の場合は何を中心にして予算がついているのか、あるいはそれを生み出した地域懇談会でどういう議論がなされてきたのか、そういうことをベースに考えて朝日庁舎の役割を組み立てていくほうが、道理に合っていると思います。あれもこれも、と欲張らずに、ある部分に特化していったほうが自然かと思います。

皆川市長

私自身も考えていたご意見もありましたし、改めて皆様からそれぞれの視点で、ご意見をいただきまして、本当に参考になりました。朝日庁舎の改築を進めていくにあたって、不断の見直しという視点からも、今のままで100点満点ということはないので、この機会に見直すとすれば、どういうことが必要になるのか。政策企画室のお話がありましたが、行政側の考えが硬直化していて、何かの機会に見直しを進めることが、なかなかできない状況があると、私自身仕事をしていて感じています。かつて政策企画室というところで過疎対策を担当し、3庁舎で議論をしていたということで、大変参考になるお話しです。朝日庁舎には41人の職員がおりますが、何を具体的にやっているのか、まだ深掘りが全然ありません。これは市側の資料作成の課題ですが、過疎対策的なことをどうするか、という論点のほか、もう一つ、今この41人がしっかりと仕事ができる環境体制ができているのか、そういった点検が必要だと思います。現在私どもでは、Web会議の話もありましたが、庁舎に窓口を置かなければいけないかどうか、本所に置いても同じようなサービスが展開できないかどうか、ということを検討しています。例えば国保年金課の業務は庁舎の市民福祉課にあります。具体的に何をしているのかをしっかりと把握して、それは庁舎にあったほうが力を発揮できるのか、それとも、専門家同士が日々意見交換できるような体制でやって、Web会議システムで補完したり、いざとなれば、行けば対応できるのか、そうした点をしっかりと整理していくと、このままが良いのか、役割を分担したほうがいいのかオーソドックスな見直しもできるはずです。その上で過疎対策を仮に朝日庁舎を中心に取組もうとしたときには、他の地域との連携などはどうするかというデザインも必要になってきます。朝日庁舎に移管すれば上手く回るのか、温海や他の地域との関係はどうするのか、今のまま動かさないほうが上手く回るのか、それをしっかりと見極める必要があります。

また、櫛引庁舎に教育委員会があり、藤島庁舎に農業委員会があります。教育委員会の仕事も、市長部局がやっていることと親和性がある業務があります。

教育委員会には学校関連業務のほか、社会教育やスポーツ、芸術文化などの業務もありますが、それは市長部局との関係もあります。教育委員会という独立部門を置いておくよりも、何か一緒にやらせたほうが上手く機能するのであれば、そこに付加すれば上手くいくことは十分考えられます。他の自治体においてはスポーツや文化部門は市長部局に移す例もあるようですが、現状の教育委員会の体制を考えたときに、教育委員会を市全体の中でしっかり機能させるためにどうするか、今は朝日庁舎の改築にあたって議論を迫られておりますが、これも十分議論のテーマになりえると思います。農業委員会、農林水産部の仕事についても同様で、どのような体制で仕事を行うと、一番力が発揮できるのか、ということを考えることが必要です。

あいさつについてのご意見がありました。これは本当にそう思います。あいさつが出ない、というのはその人が悪いというよりも、何か活気がないことの裏返しにも考えられる面もあると思います。地域庁舎に何年か勤めて、その地域の現状を理解し、本庁舎での企画立案に活かしていくような、計画的な人事配置が重要です。どこに行っても活躍していけるようなキャリアアップ、スキルアップをしていけるような組織にし、新しい庁舎にふさわしい人材を配置して、市民のためにしっかり働いていけるようにしていかなければならないと思います。

行政と市民とが一緒に前を向いて歩いていないよう感じるとのご意見もありました。今日の反省点でもありますが、私たちは日々このような話をしているので、資料のなかの言葉の意味などが分かりにくいことが多くあります。高齢者や小学生にも分かりやすいような議論も必要であると感じています。この会合は多少専門的な会合ではございますが、委員の皆様は特に行革の特別なご専門というわけではございませんので、その辺の資料づくりも、分かりやすく進めていく必要があると思います。直ぐ何かにまとめようとしてしまうと、上手くいかないこともあります。地に足をつけて具体的な改善・見直しを進めていくことで、そこで働く職員にも、地域の人にも良いことがあるものをしっかりと見定めていく必要があると思います。

補助金の話もありましたが、どうしても漫然と交付してしまうことに陥りがちですので、これも何のために補助金があって、何のために交付しているのか、見直しを図りながら、しっかり進めていきます。見直しとして具体例を示さないと、抽象的な議論になってまいりますので、この点にも注意しながら、今後進めていきたいと思っております。

高橋総務部長

予定の時間を過ぎてしまい、申し訳ありません。まだまだご意見を頂戴したいところではございますが、本日はこの辺で終了とさせていただきます。本日

は皆様から人件費、物件費、委託料との関連についての疑問がございましたので、可能なところでお示ししたいと思います。それでは進行を事務局にお返しいたします。

5. その他

五十嵐職員課主幹

それでは次第の5. その他でございますが、事務局から次回の懇談会についてお知らせいたします。

渡部総務部参事

次回、第2回につきましては、1月中旬頃に開催したいと考えておりますが、未確定です。日程調整のうえご連絡させていただきますので、よろしく願いいたします。次回の議論のテーマにつきましても、本日頂戴した意見を踏まえ、ご連絡させていただきます。また、前回同様、議事録の確認につきましてもよろしく願いいたします。

五十嵐職員課主幹

次回のことにつきましてご質問等ございませんか。日程調整にご協力くださいますよう、どうぞよろしく願いいたします。

事務局からは他にございませんが、皆様方から特にございましたら、ご発言をお願いいたします。

6. 閉 会

五十嵐職員課主幹

それでは、改めまして委員の皆様には1時間半余りにわたり、長時間のご協議をいただき、また、貴重なご意見、ご提言頂戴いたしまして、誠にありがとうございます。以上を持ちまして第1回鶴岡市行財政改革懇談会を閉会いたします。